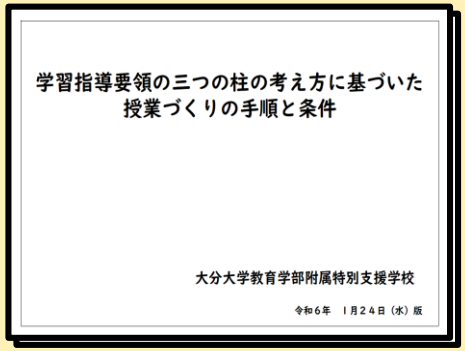
研究発表テーマ

# 三つの柱をバランスよく育成するための国語科の授業づくり

## ～『授業づくりの手順と条件』を活用して～

大分大学教育学部附属特別支援学校
国語科グループ


学習指導要領の三つの柱の考え方に基づいた
授業づくりの手順と条件

大分大学教育学部附属特別支援学校

令和6年　1月24日（水）版

# 発表の骨子

Ⅰ．児童生徒の実態に基づいた指導内容の決定
『授業づくりの手順と条件（国語編）』
（手順①～⑦）

Ⅱ．知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の
指導の計画について（手順⑧）

Ⅲ．「学びに向かう力・人間性等」を涵養する
計画の立て方について（手順⑨・⑩）

# 本校の国語科について

## ○習熟度別の学習グループを編成

「聞くこと・話すこと」「書くこと」「読むこと」の
それぞれの領域の「思考力・判断力・表現力等」の指導内容と段階を
比較し、それらを基準にグループを編成する

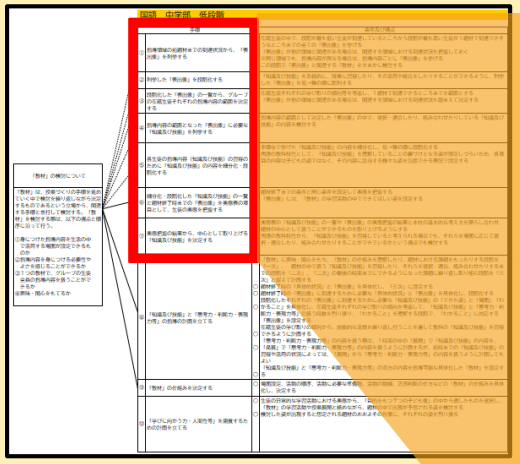
## ○年間総授業時数　40～70単位時間

・小・中学部…1題材8単位時間程度、年間8題材（70単位時間）
・高等部　　…1題材8単位時間、年間5題材（40単位時間）

## ○指導内容を取り上げる視点（一部抜粋）

・本校のチェックリストの到達状況で、未習得または未学習の内容か
　年間の題材や1題材で到達できるものか
・児童生徒の今後の生活に生きる価値のあるものか
・児童生徒の現在や卒業後の生活に即した「思考力・判断力・表現力等」
　の内容や活動を設定できるものか
・生徒の卒業までの期間を考慮し、優先的に指導すべき内容か（高等部）

# Ⅰ．児童生徒の実態に基づいた指導内容の決定



| 手順 |
|---|
| ① 指導領域の前題材までの到達状況から、「表出像」を列挙する |
| ② 列挙した「表出像」を段階化する |
| ③ 段階化した「表出像」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する |
| ④ 指導内容の範囲となった「表出像」に必要な「知識及び技能」を列挙する |
| ⑤ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために「知識及び技能」の内容を細分化・段階化する |
| ⑥ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧と題材終了時までの「表出像」を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する |
| ⑦ 実態把握の結果から、中心として取り上げる「知識及び技能」を決定する |

**思考から判断の過程を経た結果、未知の課題を解決する児童生徒の姿**

**国語科において指導の重点となるのは？**

国語科　小学部
４　指導計画の作成と内容の取扱い
（１）指導計画作成上の配慮事項

イ　２の各段階の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とすること。

**国語科では、思考力・判断力・表現力等の指導を通して知識及び技能を身につけていきます。**

**手順①　指導領域の前題材までの到達状況から、「表出像」を列挙する**

**手順②　列挙した「表出像」を段階化する**

**手順③　段階化した「表出像」の一覧から、グループの在籍児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する**

国語科の授業に取り組むに当たって

「表出像」を挙げる際は、学習指導要領に示されている「思考力・判断力・表現力等」の内容を具体化する

## 手順①～③　実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

### 「聞くこと」の到達状況

宝探しのとき「宝は和室（部屋）の椅子（物）の下（位置）にあります」というヒントを聞いて宝を見つけることができる

Rさん

### 「話すこと」の到達状況

写真を見た後、「誰・どこ・どんな・何をした」のカードを手がかりに出来事を話すことができる

次の題材でのRさんの表出像は、
「場所・物・位置の順に話す」にしよう！

## 手順①～③の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

Rさん

**具体的な場所・物・位置の順に話す**

**思考力・判断力・表現力等〔３段階〕**

| | |
|---|---|
| A<br>聞くこと・話すこと | ウ<br>見聞きしたことなどのあらましや自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること |

手順④　指導内容の範囲となった「表出像」に必要な「知識及び技能」を列挙する

手順⑤　各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために「知識及び技能」の内容を細分化・段階化する

手順⑥　細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧と題材終了時までの「表出像」を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する

手順⑦　実態把握の結果から、中心として取り上げる「知識及び技能」を決定する

## 手順⑤の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

**ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。**

（ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して，言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。

（イ）姿勢や口形に気を付けて話すこと。

（ウ）日常生活でよく使う促音，長音などが含まれた語句，平仮名，片仮名，漢字の正しい読み方を知ること。

（エ）言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。

（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により，意味が変わることを知ること。

（カ）正しい姿勢で音読すること。

**イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

（ア）物事の始めと終わりなど，情報と情報との関係について理解すること。

（イ）図書を用いた調べ方を理解し使うこと。

**ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。**

（ア）昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，言葉の響きやリズムに親しむこと。

（イ）出来事や経験したことを伝え合う体験を通して，いろいろな語句や文の表現に触れること。

（ウ）書くことに関する次の事項を理解し使うこと。

㋐目的に合った筆記具を選び，書くこと。

㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。

（エ）読み聞かせなどに親しみ，いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。

## 手順⑤の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。
（ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して，言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。
（イ）姿勢や口形に気を付けて話すこと。
（ウ）日常生活でよく使う促音，長音などが含まれた語句，平仮名，片仮名，漢字の正しい読み方を知ること。
（エ）言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。
（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により，意味が変わることを知ること。
（カ）正しい姿勢で音読すること。

イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ア）物事の始めと終わりなど，情報と情報との関係について理解すること。
（イ）図書を用いた調べ方を理解し使うこと。

ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ア）昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，言葉の響きやリズムに親しむこと。
（イ）出来事や経験したことを伝え合う体験を通して，いろいろな語句や文の表現に触れること。
（ウ）書くことに関する次の事項を理解し使うこと。
㋐目的に合った筆記具を選び，書くこと。
㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。
（エ）読み聞かせなどに親しみ，いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。

## 手順⑤の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

ア 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身に付けることができるように指導する。
（ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して，言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと。
（イ）姿勢や口形に気を付けて話すこと。
（ウ）日常生活でよく使う促音，長音などが含まれた語句，平仮名，片仮名，漢字の正しい読み方を知ること。
（エ）言葉には，意味による語句のまとまりがあることに気付くこと。
（オ）文の中における主語と述語との関係や助詞の使い方により，意味が変わることを知ること。
（カ）正しい姿勢で音読すること。

イ 話や文章の中に含まれている情報の扱い方に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ア）物事の始めと終わりなど，情報と情報との関係について理解すること。
（イ）図書を用いた調べ方を理解し使うこと。

ウ 我が国の言語文化に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。
（ア）昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞き，言葉の響きやリズムに親しむこと。
（イ）出来事や経験したことを伝え合う体験を通して，いろいろな語句や文の表現に触れること。
（ウ）書くことに関する次の事項を理解し使うこと。
㋐目的に合った筆記具を選び，書くこと。
㋑姿勢や筆記具の持ち方を正しくし，平仮名や片仮名の文字の形に注意しながら丁寧に書くこと。
（エ）読み聞かせなどに親しみ，いろいろな絵本や図鑑があることを知ること。

# 手順⑥の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

**指導内容の範囲の決定**

| | | |
|---|---|---|
| ○物を表す言葉の働きの理解<br>物カード（つくえ・ソファ・たな・ベッド・靴箱・冷蔵庫） | ○ | |
| ○位置を表す言葉の働きの理解（上下左右中、真ん中）<br>位置カード（みぎ・ひだり・うえ・した・なか） | ○ | |
| ○場所について上位カテゴリー（建物）と下位カテゴリー（部屋）の関係の理解<br>・教師が○○先生の家のリビングに宝を置いて、友だちにどのように伝えるか | △ | ・教師の所へ行き「リビングの床です」と言う |
| ○物を表す言葉の働きと位置を表す言葉の働きとの関係の理解<br>・教師がソファの下に宝を置いた時に、友だちにどう伝えるか | △ | ・教師の所に行き、「ソファにあります」と言う |
| ○場所を表す言葉の働きと物を表す言葉の働きとの関係の理解<br>・教師がキッチンのイスに宝を置いて、友だちにどう伝えるか | △ | ・教師の所に行き「○○先生、キッチン」と言う |
| ○場所を表す言葉の働きと物を表す言葉の働き、位置を表す言葉の働きとの関係の理解<br>・教師がキッチンのイスの下に宝を置いた時に、友だちにどのように伝えるか | △ | ・○○先生の所に行き、「ハートの宝箱を探してください」と言う。「どこ」と問われても「ハートの宝箱を探してください」と言う |
| ○場所を表す言葉の働きと物を表す言葉の働き、位置を表す言葉の働きとの関係の理解<br>・教師がリビングのソファの下に宝を置いた時に、友だちにどのように伝えるか<br>☆1軒の家の各部屋の3つの家具の上下左右に宝箱を置く | △ | ・「どこに宝がある」の言葉かけの後、「下の床」の後に「下の床、床の下」と3度繰り返して言う。<br>・Aが子ども部屋の机の下に宝を隠した後、教師が「隠した宝がどこにあるか教えて」と問うと、「子ども部屋」と言う |

## 手順⑦の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

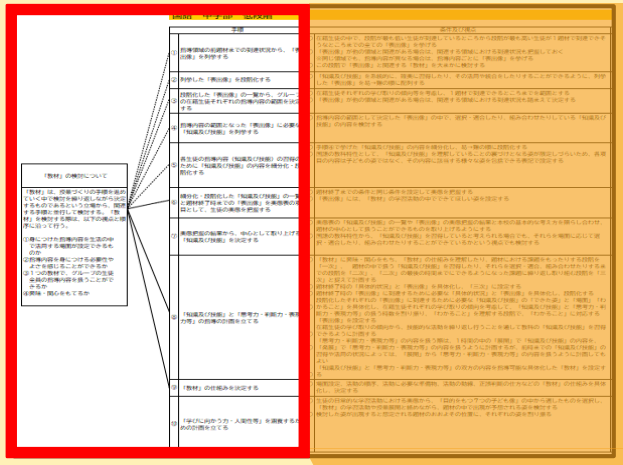
Rさん

**知識及び技能〔3段階〕**

| | |
|---|---|
| ア<br>言葉の特徴や使い方 | （ア）身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと |
| イ<br>情報の扱い方 | （ア）物事の始めと終わりなど、情報と情報との関係について理解すること<br>**中心として取り上げる知識及び技能** |

「建物」「部屋」「物」「位置」を表す言葉の相互関係を理解する

# Ⅰ．児童生徒の実態に基づいた指導内容の決定



「教材」の検討について

「教材」は、授業づくりの手順を進めていく中で検討を繰り返しながら決定するものであるという立場から、関連する手順と並行して検討する。「教材」を検討する際は、以下の視点と順序に沿って行う。

①身につけた指導内容を生活の中で活用する場面を設定できるか
②指導内容を身につける必要性やよさを感じることができるか
③１つの教材でグループの児童生徒全員の指導内容を扱うことができるか
④興味・関心をもてるか

| 手順 |
|---|
| ① 指導領域の前題材までの到達状況から、「表出像」を列挙する |
| ② 列挙した「表出像」を段階化する |
| ③ 段階化した「表出像」の一覧から、グループの児童生徒それぞれの指導内容の範囲を決定する |
| ④ 指導内容の範囲となった「表出像」に必要な「知識及び技能」を列挙する |
| ⑤ 各児童生徒の指導内容（知識及び技能）の習得のために「知識及び技能」の内容を細分化・段階化する |
| ⑥ 細分化・段階化した「知識及び技能」の一覧と題材終了時までの「表出像」を実態表の項目として、児童生徒の実態を把握する |
| ⑦ 実態把握の結果から、中心として取り上げる「知識及び技能」を決定する |
| ⑧ 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる |
| ⑨ 「教材」の仕組みを決定する |

# 実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

## 〈具体化〉

「建物」「部屋」「物」「位置」を表す言葉や、相互関係を理解して、これらの視点を組み合わせて宝の在り処を相手に伝える

必要な視点を順番に伝えたり、不足している視点の問いに答えたりして宝物の在り処を伝える（聞き取る）

聞き取った内容をもとに宝物を探す

すべての宝物を見つけることでイラストや写真が完成する

# 発表の骨子

Ⅰ．児童生徒の実態に基づいた指導内容の決定
『授業づくりの手順と条件（国語編）』
（手順①～⑦）

Ⅱ．知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の
指導の計画について（手順⑧）

Ⅲ．「学びに向かう力・人間性等」を涵養する
計画の立て方について（手順⑨・⑩）

# 知識・技能と思考力・判断力・表現力等を関連させた知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画について

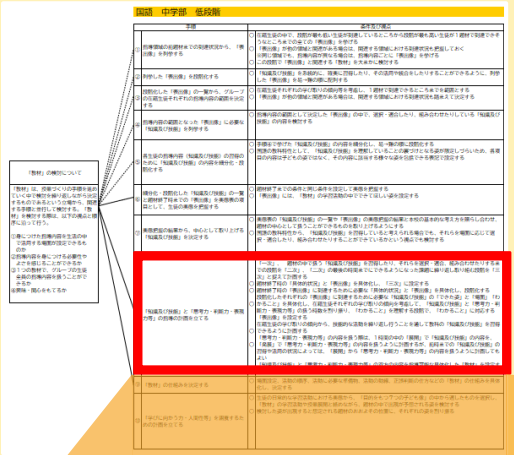
～に目を向け
ヒントを手がかりに

～がわかり
理解する

～に気づき
既に理解していることから
新たなことを理解する

| | 一次 | 二次 | | | | 三次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 知識及び技能 | 興味・関心や見通し、課題をもつ | Aに目を向け | Aがわかり（気づき） | Bがわかり（気づき） | Cがわかり（気づき） | |
| | | Aのできた姿 | Aのできた姿 | Bのできた姿 | Cのできた姿 | |
| 思考力判断力表現力等 | | | Aの思考・判断・表現 | Bの思考・判断・表現 | Cの思考・判断・表現 | A+B+Cの思考・判断・表現 |

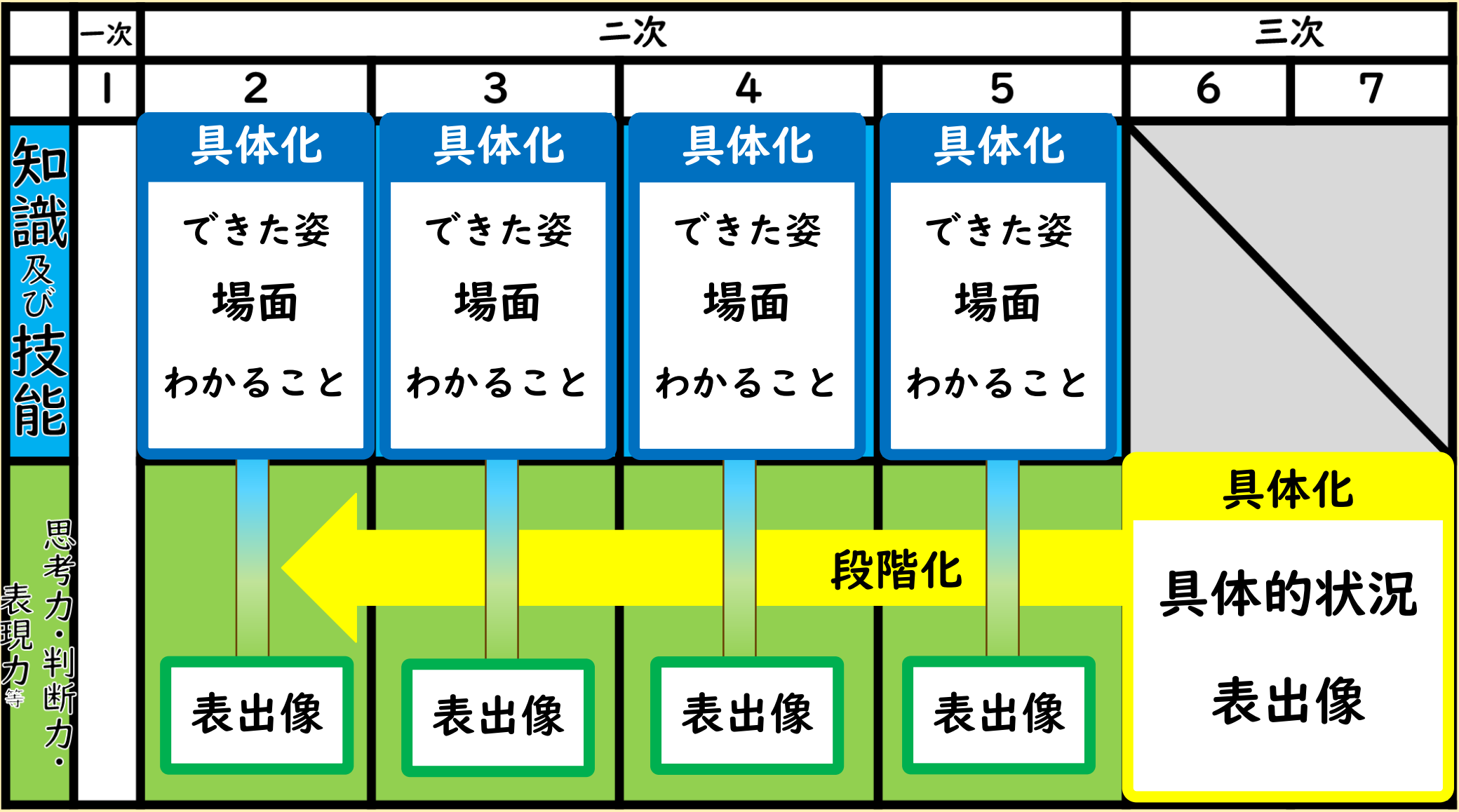
# Ⅱ．知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画について




**思考力・判断力・表現力等から指導の計画を立てていく**

| | | | |
|---|---|---|---|
| ⑧ | 「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の指導の計画を立てる | ○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○<br>○ | 「教材」に興味・関心をもち、「教材[illegible]組みを理解したり、題材における課題をもったりする段階を「一次」、　題材の中で取り扱う「知識及び技能」を習得し[illegible]り、それらを選択・適合、組み合わせたりするまでの段階を「二次」、「二次」の最後の時間までにできるようになった課題に繰り返し取り組む段階を「三次」と捉えて計画する<br>「思考力・判断力・表現力等」の題材目標を確定するために、題材終了時の「具体的状況」と「表出像」を具体化し、「三次」に設定する<br>題材終了時の「表出像」に到達するために必要な「具体的状況」と「表出像」を具体化し、段階化する<br>段階化したそれぞれの「表出像」に到達するために必要な「知識及び技能」の「できた姿」と「場面」「わかること」を具体化し、児童生徒それぞれの学び取りの傾向を考慮して、「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の扱う時数を割り振り、「わかること」を理解する段階で、「わかること」に対応する「表出像」を設定する<br>１時間ごとの「知識及び技能」のめあてを達成するための活動については、「思考力・判断力・表現力等」を身につけるための一連の学習活動の中で行うように計画する<br>児童生徒の学び取りの傾向から、技能的な活動を繰り返し行うことを通して教科の「知識及び技能」の習得やその活用の仕方を身につけることができるように計画してもよい<br>「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱う際は、１時間の中の「展開」で「知識及び技能」の内容を、「発展」で「思考力・判断力・表現力等」の内容を主として扱うように計画するが、前時までの「知識及び技能」の習得や活用の状況によっては、「展開」から「思考力・判断力・表現力等」の内容を扱うように計画してもよい<br>「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の双方の内容を指導可能な具体化した「教材」を設定する |

# 知識・技能と思考力・判断力・表現力等を関連させた知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画について



# 手順⑧の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

手順と条件
低段階活用

| | 一次 | 二次 | | | | | 三次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 知識及び技能 | | 宝の位置を伝えるためにイメージする順番 | | | | | | |
| 思考力・判断力・表現力等 | | 生活場面で想定される場面 | | | | | | |

建物、部屋、物、位置の順で話したり、不足している視点の問いに正しく答えたりする

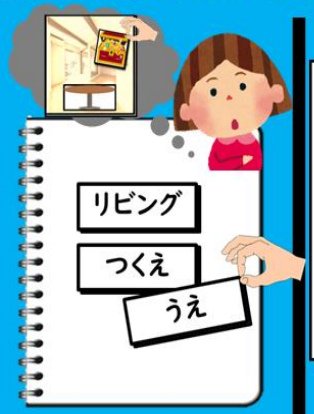
部屋、物、位置の順で話す

建物、部屋、物、位置の順で話す

# 手順⑧の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階）

手順と条件
低段階活用

| | 一次 | 二次 | | | | | 三次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| 知識及び技能 | | 宝の位置を伝えるためにイメージする順番 | | | | | | |
| 思考力・判断力・表現力等 | | めあての設定はしないが、活動は行う | 生活場面で想定される場面 | めあての設定はしないが、活動は行う | | | | |



# 手順⑧の実践例（聞くこと・話すこと　中学部2段階）

手順と条件
中・高段階活用

| | 一次 | 二次 | | | | 三次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 知識及び技能 | | 自分に必要な情報 | | | | | |
| 思考力・判断力・表現力等 | | 生活場面で想定される場面 | | | | | |

必要な情報を聞いたり、メモを書き留めたりする

メモから該当する旅行プランを決定する

旅行プラン決定

旅行プラン決定

# 発表の骨子

Ⅰ．児童生徒の実態に基づいた指導内容の決定
『授業づくりの手順と条件（国語編）』
（手順①～⑦）

Ⅱ．知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の
指導の計画について（手順⑧）

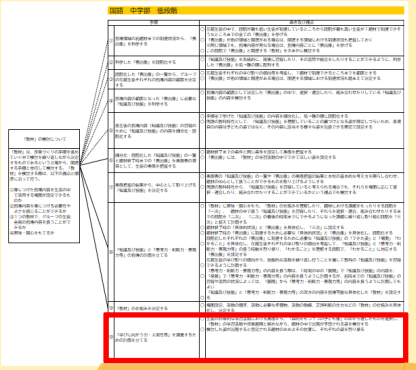
Ⅲ．「学びに向かう力・人間性等」を涵養する
計画の立て方について（手順⑨・⑩）

# 三つの柱の考え方に基づいた知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画について

| | 一次 | 二次 | | | | 三次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 知識及び技能 | 興味・関心や見通し、課題をもつ | Aに目を向け | Aがわかり（気づき） | Bがわかり（気づき） | Cがわかり（気づき） | |
| | | Aのできた姿 | Aのできた姿 | Bのできた姿 | Cのできた姿 | |
| 思考力判断力表現力等 | | | Aの思考・判断・表現 | Bの思考・判断・表現 | Cの思考・判断・表現 | A+B+Cの思考・判断・表現 |

| | | |
|---|---|---|
| 学びに向かう力人間性等（主体的な姿） | 知識及び技能の習得や活用の状況を把握<br>＋<br>学習活動の役割の明確化と教材の具体化<br>＋<br>7つの子ども像から姿を選択 | ＝ 題材の進行に伴った主体的な姿の設定 |

# Ⅲ．「学びに向かう力・人間性等」を涵養する計画の立て方について



| | | |
|---|---|---|
| ⑩ | 「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための計画を立てる | ○ 児童生徒の日常的な学習活動における実態から、以下に示す条件や視点に従って「目的をもつ７つの子ども像」の中から適したものを選択し、「教材」の学習活動や授業展開と絡めながら題材の中で出現が予想される姿を検討するとともに、それらの姿が出現すると想定される題材のおおよその位置にそれぞれの姿を割り振る |

# Ⅲ．「学びに向かう力・人間性等」を涵養する計画の立て方について

| 目的をもつ7つの子ども像 | 設定の対象となる児童生徒 | 設定の目安となる題材の位置（発達の高まりに応じて） | | | 設定する学習活動 導入 | 展開 | 発展 | 終末 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① 達成感を得て、自分の学習を振り返る子ども | すべての児童生徒 | 二次半ば～三次 | 二次全般 | | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| ② できるようになったことを持続しようとする子ども | | 二次の最後～三次 | | | ― | ◎ | | ― |
| ③ 意欲をもち、自分から取り組む子ども | | 二次前半 | ― | | ○ | ◎ | ◎ | ― |
| ④ 見通しをもち、続けて最後まで取り組む子ども | | 二次前半～半ば | 二次前半 | ― | ― | ◎ | ◎ | ○ |
| ⑤ 目標をもち、粘り強く取り組む子ども | | ― | 二次全般 | 二次前半 | ― | ◎ | ◎ | ― |
| ⑥ 友だちと学び合う子ども | | ― | 二次全般 | | ○ | ◎ | ◎ | ○ |
| ⑦ 自分で工夫し、発展していく子ども | | ― | 二次全般と三次 | | ― | ○ | ◎ | ― |

発達の高まりに応じて

## 手順⑩の実践例（聞くこと・話すこと　小学部3段階　抜粋）

低・中段階

| | 一次 | 二次 | | | | | 三次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |

**主体的な姿**

**粘り強さ**

□自分から宝物の位置を話す③

□パズルのピースをそろえてイラストが完成するまで、課題に取り組む⑤

□学習した内容を言葉や教具などを使って伝える①

**学習調整**

③「自分から取り組む」姿や
⑤「粘り強く取り組む」姿
を中心に設定

□宝物の位置を繰り返し正しい順番で伝える②

## 手順⑩の実践例（聞くこと・話すこと　中学部2段階　抜粋）

中・高段階

| | 一次 | 二次 | | | | 三次 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

主体的な姿

粘り強さ

□学習した内容や気づいたことを友だちに伝える①

□間違ったにメモを見返して、旅行プランの内容と書き留めた内容が合っているか確認する⑦

□友だちと話し合って、必要な情報を聞き取ったり、書き留めたりできているか確認する⑥

□質問したり、メモに書き留めたりして、旅行プランを選ぶ課題に繰り返し正しく取り組む②

学習調整

⑥「友だちと学び合う」姿や
⑦「自分で工夫し、発展していく」姿
を中心に設定しています。

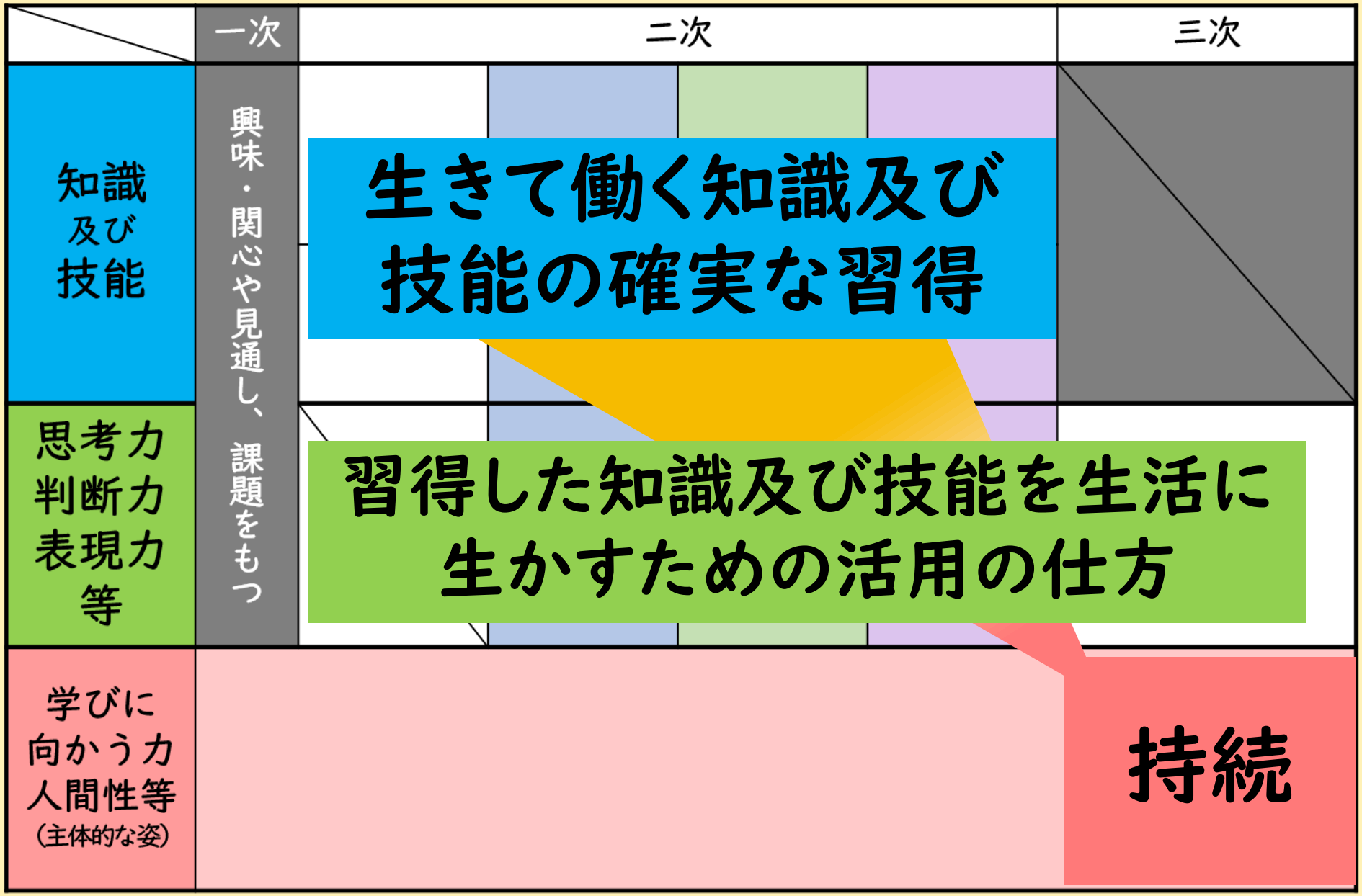
# 三つの柱の考え方に基づいた知識及び技能と思考力・判断力・表現力等の指導の計画について

| | 一次 | 二次 | | | | 三次 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 知識及び技能 | 興味・関心や見通し、課題をもつ | Aに目を向け | Aがわかり（気づき） | Bがわかり（気づき） | Cがわかり（気づき） | |
| | | Aのできた姿 | Aのできた姿 | Bのできた姿 | Cのできた姿 | |
| 思考力判断力表現力等 | | | Aの思考・判断・表現 | Bの思考・判断・表現 | Cの思考・判断・表現 | A+B+Cの思考・判断・表現 |

| | | |
|---|---|---|
| 学びに向かう力人間性等（主体的な姿） | 知識及び技能の習得や活用の状況を把握<br>＋<br>学習活動の役割の明確化と教材の具体化<br>＋<br>7つの子ども像から姿を選択 | ＝ 題材の進行に伴った主体的な姿の設定 |

# Ⅲ．「学びに向かう力・人間性等」を涵養する計画の立て方について

三つの柱の考え方に基づいた指導の計画の立て方について



# 引用・参考文献


・特別支援学校学習指導要領解説　各教科等編〈小学部・中学部〉

・特別支援学校学習指導要領解説　知的障害者教科等編(上・下)(高等部)

・大分大学教育学部附属特別支援学校【国語科　教育課程】

・「知識及び技能」と「思考力・判断力・表現力等」の考え方に基づいた授業づくりの手順と条件　大分大学教育学部附属特別支援学校 研究生産物

・主体的に活動する子どもを育てる支援の工夫
大分大学教育学部附属養護学校授業研究会著 1997 明治図書

・深い学び
田村学著 2018 東洋館出版社

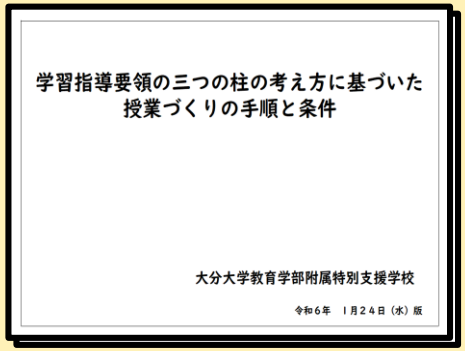
研究発表テーマ

# 三つの柱をバランスよく育成するための国語科の授業づくり

## ～『授業づくりの手順と条件』を活用して～

# 終

大分大学教育学部附属特別支援学校
国語科グループ


学習指導要領の三つの柱の考え方に基づいた
授業づくりの手順と条件

大分大学教育学部附属特別支援学校

令和6年　1月24日（水）版